

★ Kioto-Esperanto-Societo Kioto-Esperanto-Societo Kioto-Esperanto-Societo ★

Al Vi Kara

★ Kioto-Esperanto-Societo Kioto-Esperanto-Societo Kioto-Esperanto-Societo ★

N-ro 106, aŭgusto 2021



BONVENON al Kioto-Esperanto-Societo!!

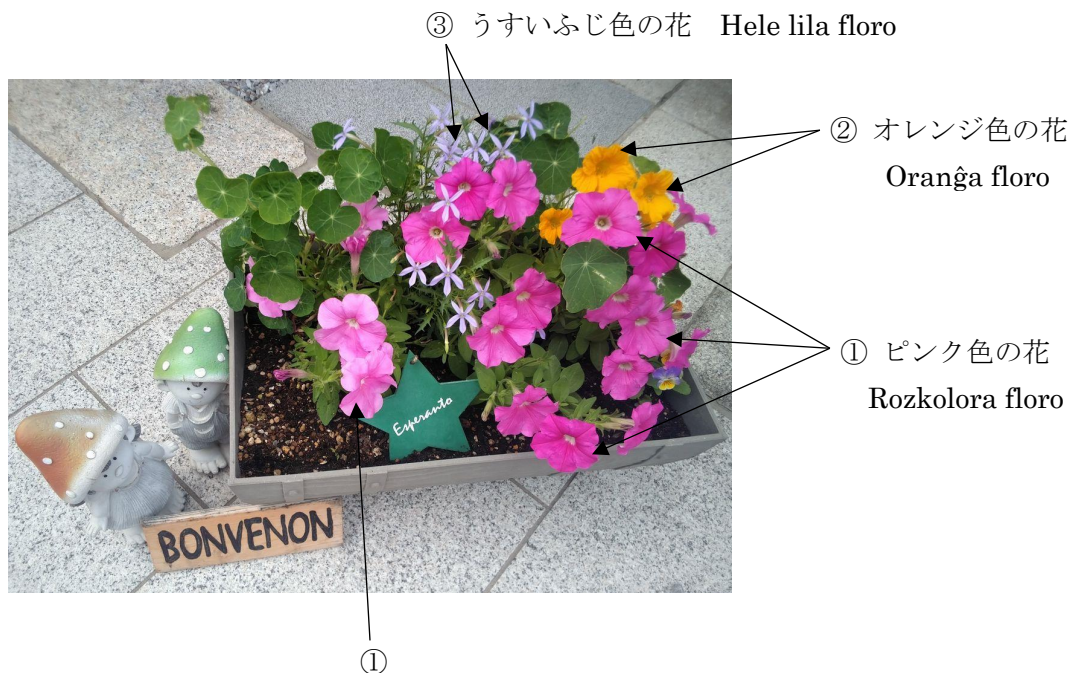
☆ ENHAVO (目次) ☆

表紙写真の花の説明	吉井 滋子	p.3
千羽鶴 / Mil Paperaj Gruoj	野田 淳子	p.4
キュリー夫人とザメンホフ	相川 節子	p.7
性を区別しない単語を——小西岳さんの提言から	相川 節子	p.9
Templo Iŝidoo-ĵi (石塔寺)	松村 伸一郎	p.10
La Ondo de Esperanto の音声付き読み物 と Radio Esperanto	ろくごう けいてつ 六郷 恵哲	p.13
「不在参加」会員ですが・・・	宮本 聖子	p.14
京都人文学園とエスペラント	すなが さとし 須永 哲思	p.15
“Esperanto-Poŝtkrucigo”: Ni vojaĝu per bildkartoj! (国際絵はがき文通について)	富田 成美	p.17
エス日辞典・電子版を日エ斯的に使う	森川 和徳	p.19



Farbitoj

表紙写真の花の説明



① ペチュニア Petunio

花言葉 Trankviligi koron 心の安らぎ
Ĉi tiu floro estas forta kaj facile kreskigebla.
丈夫で育てやすい

② ナスタチウム Tropeolo

花言葉 Venki malfacilaĵojn 困難に打ち克つ
Ĝiaj floroj kaj folioj povas esti uzataj kiel aromherboj.
花や葉はハーブとして利用できる

③ イソトマ Isotomo

花言葉 Milda anonco やさしい知らせ
Atentu pri dermatito pro ĝia tigo suko !
茎の汁による、かぶれにご用心！

(吉井 滋子、準会員、滋賀県長浜市)

※PDF ファイル(保管アドレス <http://goo.gl/FgFEb>)では、上の写真はカラーです。

千羽鶴 / Mil Paperaj Gruoj

Versoj kaj Muziko de Noda Ĵunko
Traduko de Konisi Gaku

- 1 私の涙を見て
娘はききました
どうして泣いているの
おかあさん
アメリカのジェット機が
空から落ちて来て
小さな男の子がふたり
死んでしまったの

Vidis filineto min larmanta,
kaj ŝi min demandis kun zorgem':
"Diru al mi, panjo, mia kara,
kia malĝojo premas vin?"
"Do aŭskultu, kara filineto,"
mi ekdiris en malgaja ton':
"Falis jeto de Arme' Usona,
kaj du etaj knaboj mortis, ve."
- 2 私の答えを聞いて
娘は言いました
どうしてジェット機が
人の上に落ちるの
アメリカの操縦士は
パラシュートで逃げて
だれも乗ってないジェット機が
家に落ちてきたの

Kaj aŭdinte, kion mi parolis,
plu demandis kara filinet':
"Kiel do okazis, ke, terure,
sur la homojn falis granda jet'?"
"La soldatoj, kiuj stiris jeton,
tuj eskapis for per paraŝut'.
Kaj la jeto jam sen la stirantoj
kraŝis sur tegmenton de la dom'."
- 3 おどろいた顔をして
娘はききました
どうして男の子は
死んでしまったの
大きな音がして
家も人も燃えて
ひどい火傷をして
病院へ運ばれたの

Mire ŝi malfermis la okulojn,
kaj denove ŝi demandis min:
"Kial la knabetoj kompatindaj
sian vivon devis perdi for?"
"Ja okazis ege granda bruoj,
tuj ekbrulis homoj kaj la dom'.
La knabetojn grave brulvunditajn
oni portis al la hospital'."

※この歌の説明は6ページにあります。

- 4 小さな弟は
そのときたった一つ
はとぼっぼの唄を
歌いながら死んだの
お兄ちゃんのほうは
いたずらの好きな
元気な三つの
かわいい子だったの
- 5 いい子にしてるから
お水をちょうだいと
何度もたのんでも
飲めずに死んだの
その子の母さんも
ひどいやけどをして
ちがう病院に
運ばれていたの
- 6 二人の子供の
死んだことも知らず
子供のためにと
がんばっていたの
クリスマスのプレゼントに
子供たちのために
痛む指先で
千羽鶴折ったの
- 7 私は話をしてて
胸いっぱいになり
思わず娘を
抱き寄せました
「お母さん」といって
しがみついてきて
娘はいつまでも
泣いていました
泣いていました
- La pli juna, ĉarma eta knabo
havis aĝon de nur unu jar’.
Li elspiris sian lastan spiron
dum li kantis Kanton de Kolomb’.
La pli aĝa frato, siavice,
estis gaja kaj kaprica knab’.
Kun la aĝo de tri plenaj jaroj
amis lin ĉiuj ĉirkaŭ li.
- “Ĉar mi estos bona, obeema,
donu al mi akvon, petas mi.”
Tiel petis li ripete, arde,
sed engluti jam ne povis li.
Ankaŭ la patrino de l’ infanoj
kuŝis en alia hospital’,
ĉar ŝi estis same vundegita
kiel ŝiaj filoj sen esper’.
- Ke jam mortis karaj la filetoj,
ŝi ne sciis, ho, ne sciis ŝi.
Kaj ŝi eltenadis la suferon
brave por la kara famili’.
Per la fingroj pike dolorantaj
ŝi faldadis kaj faldadis plu
por donaco de l’ Kristnaska Festo
mil paperajn grupojn kun sopir’.
- Dum la rakontado min plenigis
forta kaj varmega emoci’.
Firme mi brakumis la filinon
fikse, preme nur al mia Brust’.
“Panjo, kara!” flustris ŝi murmure
kaj alpremis sin al mi kun plor’.
Ŝi ploradis daŭre kaj senfine,
ne finiĝis ŝia plor’.
Ne finiĝis ŝia plor’.

曲の説明

1977年9月27日神奈川の厚木基地から飛び立った米軍のファントムジェット機が横浜の住宅地に墜落して、大変なやけどを負った二人の幼い男の子が亡くなりました。なんとか助かった母親もその後亡くなりました。

同じ年頃の娘を育てながら、歌手活動をしていた私はこの事件を歌にして皆さんに伝えたいと心から思いました。

夫の「思いがあれば必ず創れる」という言葉にはげまされ、はじめて作詞作曲した曲です。

大切に歌ってきました。

エスペラントを学びはじめて1年目の時、250曲以上の歌をエスペラント語に訳されていた小西岳さんにこの曲の訳をお願いしたら、こころよく受けてくださり、何度も書き直しをされて完成させていただきました。

小西さんは2018年に亡くなりました。

宝物のように大切にしたいと思います。

(野田淳子、正会員、京都市東山区)

—小西さんの説明文—

La kanto prikantas korporeman tragedion: En sept. 1977 usona milit-jeto kraŝis en Jokohamo, kaj mortigis du infanetojn kaj ilian patrino. La versoj estis esperantigitaj laŭ peto de la verkinto de la kanto, profesia kantisto nun lernanta Esperanton.

愛の母子像 (横浜市)

港の見える丘公園に説明板とともに設置されています。
(写真は Wikipedia より)



キュリー夫人とザメンホフ

相川節子（準会員、京都府宇治市）

2021年5月26日、地域FM放送「京都三条ラジオカフェ」で、「キュリー夫人とザメンホフ」というテーマで話しました。

以下は、その原稿をエスペ란ティスト向けに書き直してふくらませたものです。

ザメンホフは1859年にポーランドのピアウイストクで生まれ、1873年に一家でワルシャワへ引っ越しました。

この同じ時代に、やはりワルシャワに住んでいて、のちに有名になったポーランド女性があります。マリア・スクウォドフスカ、のちのマリー・キュリーです。日本ではキュリー夫人という呼び名で知られていますので、以下、こども時代も含めて「キュリー」と呼ぶことにします。キュリーは1867年生まれで、ザメンホフより8歳年下になります。ラジウムという元素を発見し、ラジウムから出る放射線について深く研究して、ノーベル賞を受賞しました。

キュリーとザメンホフに接点があったかどうかはわかりません。でも、このふたりの伝記を読み比べると、共通点がいろいろあります。

まず、ふたりとも父親が教師でした。ザメンホフの父親は語学を教えていましたし、キュリーの父親は数学と物理の教師でした。文系と理系、それぞれの父親の専門分野が、のちのふたりの偉業にも影響を与えたと思われまます。

ザメンホフは9人きょうだい、キュリーは5人きょうだいでした。子だくさんの家計の足しにするため、両家とも自宅に寄宿生を何人か住まわせていました。

ふたりの生い立ちで何より重要な共通点は、言語差別に心を痛めながら育ったということだと思います。まず、キュリーのエピソードを見ていきましょう。

当時のワルシャワは帝政ロシアの支配下にありました。ロシア政府は、ポーランドのことはも文化も禁止していました。キュリーが10歳のときのできごとですが、学校の授業で、勇気のある先生がポーランド語を使ってポーランドの歴史を教えていました。そこへ、ロシア政府の視学官、日本で言えば文部科学省の役人か教育委員会の長にあたるような人が視察にやってくる。先生も生徒も大急ぎでポーランド語の教科書を教室の外に隠し、裁縫の時間のように見せかけました。視学官は生徒の机の中まで開けて、ポーランド語の教材がないか調べたそうです。

日本が朝鮮半島で似たようなことをしていたという歴史を考えると胸が痛みますが、キュリーが少し成長してからも似たようなエピソードがあります。学校を卒業したキュリーは一時期住み込みの家庭教師になりますが、雇い主の了解を得た上で、生徒にポーランド語も教えました。ばれたら反逆罪で捕まる危険がありましたから、教える

キュリーにも、それを許した雇い主にも勇気が要ることでした。

一方、ザメンホフの生まれ故郷ビヤウストクの言語環境については、エスペランティストのみなさんはよくご存じでしょう。ユダヤ人、ドイツ人、ポーランド人、ロシア人が住んでいて、民族によってことばが違うためにいさかいが起こるのをザメンホフは日常的に見ていました。また、ロシア人がいばっていて、ロシア語が強制される場面にも出会いました。この体験から、ザメンホフは、誰にとっても対等な言語を作ろうと思いついたのです。

キュリーとザメンホフ。このふたりは、同じ時代に同じ町の空気を吸っていました。そしてふたりとも、言語差別によって傷つく体験をしました。傷ついただけでなく、それを跳ね返す行動もしていました。小学生のときのキュリーは、ロシアの検視官に隠れてこっそりポーランド語を習うという形で言語差別に抵抗していました。家庭教師時代には、禁じられているポーランド語を、危険をおかして生徒に教えました。ザメンホフは、強い民族が自分のことばを弱い民族に押し付けてはならないと考え、中立のことばとしてエスペラントを提案しました。

もうひとつ、キュリーとザメンホフの共通点だと感じたことがあります。

キュリーが発見したラジウムは、当時医学や工業の分野で広く使われました。キュリー夫妻はそのラジウムを精製する方法を苦労して編み出したのですが、その方法の特許をとりませんでした。「科学的発見から個人が利益を得てはいけない」というのが、キュリー夫妻の考えでした。

ザメンホフも、最初にエスペラントを世に出したとき、個人的な権利はいつさい放棄する、とパンフレットに記しています。

長い時間をかけて試行錯誤し、苦労を重ねて作り出した物だけれど、その成果を使うための法律上・経済上の権利は主張しない。世の人々のために開放する。この姿勢は、キュリーとザメンホフに共通のものだったのです。

昨年、ある日本の出版社が **Esperanto Culture Magazine** という雑誌を発刊し、その誌名を商標登録して他者の使用を制限するという動きがありました。雑誌は全文英語で、内容もエスペラントとは無関係とのこと。結局商標登録は通らなかったようですが、仮に全文エスペラントの雑誌だったとしても、**Esperanto** という名称を商標登録して他者の使用を制限するなんて、とんでもない話です。

キュリーとザメンホフのお墓の前で謝ってほしい、とさえ思います。

参考資料：

大月書店『マリー・キュリー 新しい自然の力の発見』

ナオミ・パサコフ著 西田美緒子訳

原書房 『ザメンホフ 世界共通語を創ったユダヤ人医師の物語』 小林司著

性を区別しない単語を——小西岳さんの提言から

相川節子（準会員、京都府宇治市）

La Movado 1984年8月号に、Seksegalecon en Esperanton という表題の記事があります。筆者は小西岳さんです。

その中に、女性を表す接尾辞があるのに男性を表す接尾辞がないことの不公平・不合理について、また親族関係を表す名詞についての提案が書かれています。

エスペラントでは、父が **patro** で母が **patrino**、夫が **edzo** で妻が **edzino** というふうになっていて、性別を区別しない「親」「配偶者」に当たる単語がありません。そこで、まず男性を表す接尾辞、たとえば **-ed-** を作る。そして、男女を問わず「親」を表す単語、たとえば **parento** を導入する。すると父親は **parentedo**、母親は **parentino** となり、より合理的な単語体系になる。また性別に関係のない「親」を表す単語があれば、**unuparenta** (片親の) **infano** のような表現も可能になる。同じように、「配偶者」を表す何かの単語、たとえば **sposo** を導入すれば、夫は **sposedo**、妻は **sposino** となる。そして、**sensposa vivo** のような合成語が可能になる。

もちろん、**patro** や **edzo** という語根をやめてしまおうというわけではありません。それらは、新しい表現と並行して使われ続けることになるでしょう。

今から40年近く前に、すでにこのような提案をされた小西さんはやはりすごい人だと思います。

(この記事は小西さんの著書「エスペラント文法を考える」に収録されているはずですが、今手元に実物がなくて確認できません。記憶違いだったらすみません)

日本語話者にとって、**patro** や **edzo** よりやっかいな単語が **nepo** や **kuzo** です。日本語の「孫」「いとこ」に男女の区別はありませんが、エスペラントでは男の孫が **nepo**、女の孫は **nepino** です。また **kuzo** は男のいとこで、女のいとこは **kuzino** と言わなければなりません。これも、性別に関係のない語根があれば混乱しないで済むのに、と思います。

またここ数十年の間に、人間が「男」「女」の二種類にきっぱり分かれる存在ではないことが知られるようになってきました。典型的な男性と典型的な女性の間には、ひと続きのグラデーションがある。また心の性別と肉体の性別が一致しない人もけっこういる。恋愛対象が同性、あるいは同性異性両方という人も珍しくない。そういうことがわかってくると、性別を区別しない語根の必要性がますます感じられます。

英語で兄弟は **brother**、姉妹は **sister** ですが、性別を区別しない「きょうだい」に当たる単語が存在することを最近知りました。**sibling** というのだそうです。エスペラントにも、そんな単語がほしいですね。

Templo Iŝidoo-ĵi

松村 伸一郎 (正会員、京都市山科区)

エスペラント語の勉強を始めて、一年を過ぎました。なかなか上達しません。理由ははっきりしています。使わないから、ということです。そこで、この機会にエスペラント語で簡単な文章を書いてみました。拙いものではありませんが、読んでいただければ幸いです。内容は、先日行って来た石塔寺の紹介です。

En tre varma somera tago mi vizitis Templon Iŝidoo-ĵi. Templo Iŝidoo-ĵi situas ĉe la orienta bordo de Lago Biŭa en la urbo Higaŝioomi-ŝi, la gubernio Ŝiga. Estas diversaj arkeologiaj restaĵoj de la periodo Ĵoomon kaj multaj praaj tombejoj en la regiono de la urbo Higaŝioomi-ŝi ĝis la urbo Oomihaĉiman-ŝi. Kaj multaj migrantoj de Baekje kaj Silla loĝis tie. Templo Iŝidoo-ĵi estas en tia loko. La regiono ankaŭ inkluzivas la lokon Gamoo-no, kiu estas fama pro la amkanto de Manĵoo-ŝuu "Se vi mansvingas al mi dum vi moviĝas de Murasaki-no al Ŝime-no, la gardisto vidos vin."

Al la templo Iŝidoo-ĵi mi iris per trajno. En la stacio JR Oomihaĉiman, mi ŝanĝis min al la fervojo Oomi kaj direktis min al la stacio Sakuragaŭa. La veturprezo estis 650 enoj. La veturbileto de la fervojo Oomi estis dika papero kaj havis malnovan senton/modon, sed la veturilo estis nova. La stacio Sakuragaŭa estas senoficista kaj la stacidomo estas tre malnova. De ĉi tie mi devis piediri laŭ la vojo ĉirkaŭita de rizkampoj. Piedirinte ĉirkaŭ 20 minutojn, mi eniris la vilaĝon Iŝidoo-ĉo laŭ la monto. Se mi trairis tien kaj iom eniris la monton, Templo Iŝidoo-ĵi situas. Templo Iŝidoo-ĵi estas trankvila malgranda templo. Oni havas la legendon, ke la templo estas origininta de princo Ŝootoku-taiŝi. Mi pagis 400 enojn por enira honorario kaj eniris la



templon. La ĉefa halo estas malgranda. Tie Seikanzeon-bosacu estas ĉefa Budhostatuo sed ĝi ne videblas ĉar ĝi estas sekreta Budhostatuo. Ni povas vidi antaŭstarantan la Ĵuuiĉimenkanzeon-bosacu. Poste mi devis



supreniri longajn ŝtuparojn de pli ol 100 ŝtupoj. Ambaŭflanke de la ŝtuparo malgrandaj ŝtonaj Budhostatuo kaj malgrandaj ŝtonaj pagodoj estas vicigitaj. Kiam mi finis supreniri la ŝtuparon, mi eniris en malgrandan placon. Estas mistere formita tri-etaĝa ŝtona pagodo. Ĝi altas 7,5 metrojn kaj laŭdire estas la plej malnova ŝtona pagodo en Japanio.

Granda nombro da malgrandaj ŝtonaj Budhostatuo kaj malgrandaj ŝtonaj pagodoj ĉirkaŭas la pagodon. La placo estis tre trankvila loko. Mi eĉ sentis min mistera pro la nekonata formo de la pagodo. Ĉi tiu ŝtona pagodo nomiĝas pagodo de Reĝo Aŝoka.



Templo Iŝidoo-ĵi havas la alian legendon, ke la ŝtona pagodo en Templo Iŝidoo-ĵi estas konstruita de Reĝo Aŝoka. Laŭ la legendo, la Reĝo Aŝoka konstruis 84 000 ŝtonkolonojn en la mondo kaj unu el ili estis elfosita ĉi tie dum la Heian-epoko kaj metita en ĉi tiun templon. Sed oni kredas, ke ĝi verŝajne estas konstruita de enmigrintoj el Baekje pro sia formo. Tamen estas vere, ke Aŝoka konstruis multajn ŝtonajn kolonojn, kaj ŝajnas, ke iuj el ili ankoraŭ ekzistis en Hindio. Iuj ankaŭ

estas uzataj kiel desegno por la nacia flago de Hindio. Mi pensas ke somera sunlumo kaj somera silentego konvenas la Templon, Iŝidoo-ĵi.

*地名や仏教用語等は以下のように考えています。

Templo Iŝidoo-ĵi (石塔寺)、Lago Biŭa (琵琶湖)、
la urbo Higaŝioomi-ŝi (東近江市)、arkeologiaj restaĵoj (遺跡)、
la gubernio Ŝiga (滋賀県)、la periodo Ĵoomon (縄文時代)、praa tombejo (古墳)、
Oomihaĉiman-ŝi (近江八幡市)、migrantoj (渡来人)、Baekje (百濟)、
Silla (新羅)、Gamoo-no (蒲生野)、la amkanto (相聞歌)、Manjoo-ŝuu (万葉集)
"Se vi mansvingas al mi dum vi moviĝas de Murasaki-no al Ŝime-no, la gardisto
vidos vin."

「あかねさす紫野ゆき 標野ゆき 野守は見ずや 君が袖振る」の訳のつもりです。
Ŝootoku-taiŝi (聖徳太子)、La ĉefa halo (本堂)、ĉefa Budho (御本尊)、
Seikanzeon-bosacu (聖観世音菩薩)、sekreta Budhostatuo (秘仏)、
antaŭstaranta la Ĵuuiĉimenkanzeon-bosacu (御前立の十一面観世音菩薩)、
ŝtonaj Budhostatuoĵoj (石仏)、malgrandaj ŝtonaj pagodoĵoj (石塔または石の仏塔)、
Reĝo Aŝoka (阿育王、アショカ王)、ŝtonkolono (石柱)、
en la mondo (三千世界、世界中)、Heian-epoko (平安時代)

*石塔寺の振り仮名は「いしどうじ」となっています。読みは「ishidooji」となるので
しょう。石塔寺の現在の住所は東近江市石塔町で、郵便番号の検索などでは「いしどう
ちょう」の振り仮名になっています。ただ旧住所は蒲生郡蒲生町石塔で、私の父もそう
でしたが、地域の人には「いしど」と読んでいます。道路標識では石塔寺は「Ishidoji」
となっていました。どう読むのでしょうか。「小さな石塔」などは「せきとう」で「sekitoo」
と読まれます。

(終)

La Ondo de Esperanto の音声付き読み物と Radio Esperanto

ろくごう けいてつ

六郷 恵哲 (正会員、岐阜市)

エスペラントの場合も、目で読む「読み物」に加え、耳で聴いて楽しめる「聴き物」が徐々に充実してきた。「聴き物」や動画に関するインターネット情報が、La Movado や La Revuo Orienta にいろいろ載っている。これらの情報を参考にしながら、「聴き物」を探してみた。

雑誌 La Ondo de Esperanto に収録されている rakontoj のテキスト文と滑らかな読み上げ音声とが、公開されていた (<https://radio.esperanto-ondo.ru/literaturo>)。ブラジルの作家 Paulo S. Viana による Du ringoj や Mi ne havas horloĝon を繰り返し聴いた。聴いて理解できないところをテキスト文で確認できるので、都合がよい。

La Ondo de Esperanto の内容を紹介することを目的とした Radio Esperanto (<https://radio.esperanto-ondo.ru/>、図-1の右は Aleksander Korĵenkov さん、左は Halina Gorecka さん)は、rakontoj の紹介に加え、ニュースや歌や様々な内容で構成されており、面白い。Radio Esperanto は、年に数回、インターネット上に音声等のデータファイルが公開されている。なお、Radio Esperanto の No.56 (2021/01/11 公開) 以来、半年以上更新されておらず、心配している。

Radio Esperanto をはじめて聴いたとき、早口すぎて聴き取れなかった。しかし、何度も聴いていると、分からない単語は多いものの、概略をなんとなく理解できるようになった。不思議である。藤本達生さんが亡くなられたことを、昨年 10 月、Radio Esperanto の No.55 (2020/10/18 公開)で初めて知った。”Mi finfine iĝis avo!”といった、Korĵenkov さんのプライベート情報も紹介されており、親しみがわく。

なお、La Ondo de Esperanto や Radio Esperanto は、Kaliningrado で制作されている。ロシアの飛地領カリーニングラード州は、ポーランドとリトアニアに挟まれており、その州都が Kaliningrado である。

Radio Esperanto

Kaliningrada podkasto en Esperanto



図-1 Radio Esperanto の HP (<https://radio.esperanto-ondo.ru/>) の一部

「不在参加」会員ですが・・・

宮本 聖子（正会員、亀岡市）

Saluton! まず、お久しぶりの皆様には「ご無沙汰しております」、「宮本？誰それ？」と思われる皆様には「はじめまして」とご挨拶させていただきます。

京都エスペラント会と日本エスペラント協会（JEI）に入会して、ちょうど30年になります。例会には出席していないものの、その間、いろいろな国のエスペランチストと文通したり、関西大会や日本大会にときどきふらっと参加したり、子連れ講座をしたり、エスペラントを紹介する展示をしたりと、気ままにエスペラントとつきあってきました。三年前、マダガスカルから茨城大学に留学していた Fafah と例会に出席させていただきましたが、そのときが初めての例会でした。

KLEG や JEI の会報に好き勝手なテーマで何度か書かせていただいたこともありますが、見知らぬ方からの感想を編集部からお聞きしたり、行事で自己紹介をしたときに私の原稿のことを思い出してくださった方があったりと、文字になって残ることの重大さにあらためて身が引き締まる思いもしました。この駄文も PDF で閲覧できることで、いささか緊張しながら原稿を作成しています。

二年半ほど前、あることを契機として、終活を一気に進めました。実は、そのときにエスペラントも「終活」しようかと考えました。しかし、以前にベテラン会員がどこかの会報で書かれた、会員であることの意義についての記事を思い出しました。その記事は、高齢で会報が読みにくくなっても脱会すべきではない、会員であることは財政的な支援を行っていることであるからだということや、各種大会に実際に参加できないときには、不在参加という独特の参加方法があるのだから、物理的制約があっても積極的に不在参加すべきだという趣旨であったのです。活動に献身的に関わってくださる方々あつての会ですが、私のような「外野にいるサポーター」的存在でも、いてもよいのかなと思い直し、エスペラントに関する「終活」はしませんでした。

小五の時、国語の教科書で初めてエスペラントの存在を知ったときの胸の高鳴り、高校に入って間もなく、入会について問い合わせた JEI から入会案内書を受け取ったときの喜び、33歳になってあらためてエスペラントを勉強しようと思ったときの思い、海外文通を通しての交流などが私の記憶を巡ったことも、もうひとつの要因でした。

今後も気まぐれな「不在参加」会員ですが、今後ともよろしく願います。どこかの行事でお会いしたら、「ああ、あの宮本か。」と思い出していただけたら、うれしいです。

（終）

京都人文学園とエスペラント

すなが さとし

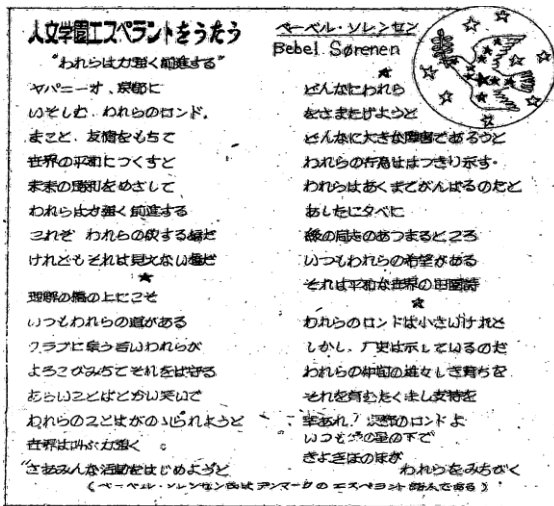
須永 哲思（正会員、京都外国語大学・非常勤講師）

「京都人文学園」は、1946年6月に創立されたいわゆる戦後「自由大学」の一つ（制度的には「各種学校」の位置づけ）で、1950年に昼間部が廃止され以後は夜間部を中心に運営、1957年3月に京都勤労者教育協会と統合し新たに「京都勤労者学園」が設立されることになりました¹。京都人文学園では、1947年度から「エスペラント課」が開講され、当初は栗栖継氏、その後は佐々木時雄氏が講師を担当していました。

人文学園卒業生の吉田九洲穂氏がご自宅に遺していた資料には、後の平凡社時代の『世界の子ども』に関する資料に加えて、京都人文学園に関係する資料も含まれています。当時の学園新聞からは、授業科目外で吉田氏・北さと氏・川野邦造氏を中心にエスペラントロンドが結成され、国外と積極的に文通活動を行っていたことがうかがえます。また、吉田氏の人文学園時代のノートには、この時の文通のものと思われる実際の手紙が挟み込まれていました。

敗戦後の日本の状況や自分たちが抱えている問題・悩みについて綴った手紙に対して、世界中から暖かい返事の手紙が届いたことは、人文学園で学ぶ学生にとって、とても重要な出来事だったと思います。今後、吉田九洲穂氏所蔵資料と「ラボール学園」（京都市中京区）所蔵の人文学園関係資料とをあわせて検討していくことで、当時の人文学園のことについて、より考察を深めていきたいと考えています。

○京都人文学園自治会機関誌 『金曜日』第5号（1949年2月）



○京都人文学園エスペラントロンド宛の封筒表紙（1949年3月19日）…差出人はドイツのギュンター・ヤコブ、内容は自治会機関誌が報じた学生結婚について祝福するもの。



¹ 京都人文学園については、『わが青春—京都人文学園の記録』（京都人文学園創立三〇周年記念世話人会編集発行、1976年…第1部の執筆は吉田九洲穂）、山寄雅子『京都人文学園成立をめぐる戦中・戦後の文化運動』（風間書房、2002年）などに詳しい。

“Esperanto-Poŝtkruciĝo”: Ni vojaĝu per bildkartoj!

(国際絵はがき文通について)

Tomida Narumi

En nia Esperantujo, estas diversaj grupoj por interrilati internacie en diversaj kampoj. Ĉi-jare, mi aliĝis al Eo-grupo nomata “Esperanto-Poŝtkruciĝo”, prezentite de amiko en Francio. Kion ili faras? Tio estas sendi bildkarton al iu en la grupo unufoje en unu monato. Nun la nombro de la membroj tutmonde estas ĉirkaŭ 940.

Procedo por sendi bildarton estas tiela: 1) Registri min al la grupo per interreta aliĝilo (Vidu la retadreson en la fino de mia skribaĵo!). 2) Tiam, mi sendas mian preferon pri bildkarto kun via nomo, aĝo, poŝtadreso, nivelo de mia Esperanto, ktp. Ni povas elekti desegnaĵojn de bildkartoj en multe da specoj: naturo, historio, manĝaĵo, animalo, konstruaĵo, vojaĝo, muziko, esperanta evento, io ajn, ktp (Mi elektis la lastan). 3) Post ĝi, mi ricevas informon pri tiu, al kiu mi sendos mian bildkarton en la 25a de ĉiu monato aŭ post kelke da tagoj de la 25a. Mi do tuj preparu bildkarton. Elekti ĝin por mia nova kaj nekonata amiko estas granda plezuro al mi. 4) Mi skribas mallongan mesaĝon al tiu sur la bildkarto kaj ĵetas ĝin en poŝtan keston. Ne forgesu, ke la prezo de internacia poŝto por unu bildkarto estas NUR 70 JENOJ al ia ajn lando en la mondo!! 5) Kompreneble, mi ricevos bildkarton el iu. Atendu ĝin kun granda espero! 6) Post ricevo, mi sendas bildon de tiu bildkarto al la vizaĝlibra paĝo (Facebook) de la grupo. La fino.

La bildkarto, kiun mi ricevis unufoje, estis el iu viro en Germanio. Lia mesaĝo diris, “Esperanto-Poŝtkruciĝo diris al mi skribi vin. Nun mi sendos al vi bildkarton de floroj en neĝo.” En lia bildo, estis tre bela kontrasto inter neĝa blanko kaj alia blanko de floroj! Li stampis kelke da literoj, kiujn mi ne povis legi, kun lia retadreso. Mi tuj sendis al li mian demandon pri tiuj literoj. Laŭ lia klarigo, ili estis la sindaraj lingvaj literoj, kiuj estis kreitaj de fama verkisto Tolkien, kaj la signifo de la stampo estis “La mondo estas ŝanĝata”.



Interesege!! Mi pensas, ke Esperanto estas la sama kiel tiu lingvo. Nia lingvo naskiĝis por ŝanĝi nian mondon al io, kio estas pli paca, libera kaj egala, kaj ĝi daŭriĝis uzi ĝis nun por tio. En tiu senco, mi ricevis tre bonan kaj gravan mesaĝon de la komenco de mia agado internacia per bildkartoj.

Tre hazarde, en tiu julio, mi denove ricevis bildkarton de li. Ĉiŝoj, li elektis pordon de klasika vagono kun valizo kaj ĵurnalo. Kiel ĉarma senso! Preskaŭ el ni nun povas vojaĝi nenien, speciale alilanden. Lia bildo donis al mi aspiron de pli libera mondo post la kovimo. Dankegon, amiko!



Pri mia unuafoja sendo de bildkarto, ĝi estis al litova virino. Mi sendis bildkarton de Pufesto (Hina-macuri) en la 3a de marto. Fakte, mi vizitis budhisman templon Hookjoo-zi en Kioto tiam. Tiu templo enhavas multajn pupojn de malnovaj imperiestraj princinoj, kiuj spertis siajn vivojn tie kiel monaĥinoj. Mi vidis ekspozicion de ili kaj aĉetis bildkartojn tie. Mi volas, ke ŝi ĝuis malnovan atmosferon de tiuj pupoj kaj pufesto (kvankam, aliflanke, mi private pensas, ke tiu festo inkluzivis/-vas problemojn pri genra egaleco dum tre longa tempo).



Nu, iomete bedaŭrinde, ni eble ne povas sendi/ricevi bildkarton ĉiumonate. Ricevontoj de niaj bildkarto estas elektitaj aŭtomate ĉiŝoj. Sed, tiu sistemo eble ŝajnas ne funkcii bone de tempo al tempo. Mi ricevis bildkartojn nur du fojojn dum tiuj 5 monatoj. Kaj mi ne povis sendi miajn bildkartojn al miaj ricevontoj du fojojn. Ĉar ili loĝas en Brazilo. Pro la kovimo, nun japanaj poŝtoŝejoj ne akceptas poŝtaĵojn al Bazilo per aera poŝto pro ĝia senfunkcio. Mi bedaŭras mankon de ligo kun ili. Kaj, en iu monato, informo pri ricevonto estis sendita al mi tre malfrue en la sekvanta monato. Al japanoj, tia stato eble ŝajnas tro malfiksa por glata interrilato. Sed, mi pensas, ke ankaŭ tio estus iusence interesa por amuziĝi pri tiu evento kun malsevera sento.

Ni povas skribi mallongajn frazojn kiam ni finas elementan kurson de Esperanto. Skribi longan leteron estas ne facile al multe da ni eĉ japane. Sed, kia estas skribi unu aŭ du mallongajn esperantajn frazojn? Ni povas ligi nin mem al la mondo per ĝi. Unu bildkarto skribita en Esperanto estas tre malgranda, sed ĝi fariĝos granda fenestro, kiu liberigas nin al ĝuo renkonti novajn geamikojn mondveste. Ĉu ankaŭ vi ne ŝatus komenci ĝin?

URL de Esperanto-Poŝtkruciĝo: <https://bildkarto.wixsite.com/bildkarto>

(Fino)

エス日辞典・電子版を日エ斯的に使う

森川和徳（正会員、京都府乙訓郡大山崎町）

エスペラント日本語辞典第2版の Windows ソフトが 2019 年 11 月に発売され、私は購入しました。値段は 5400 円（税抜）。

通常は、デフォルトの検索条件「前方一致検索」のまま、検索語句に例えば「farbito」を入力し、「検索開始」ボタンをクリックすれば、farbito の語句が検索され、「アサガオ」が検索できます。

(図 1)

最近知ったのですが、検索条件を「全文検索」にすることで、日本語も検索できるようになります。(図 2)

例えば「アサガオ」のエスペラント訳を知ろうとすれば、検索語句に「アサガオ」を入力し「検索開始」をクリック。

「アサガオ」でエスペラント日本語辞典の全体の検索が行われ、6つの単語が検索されます。daturjo はチョウセンアサガオ、farbito はアサガオ、konvolvulo はセイヨウアサガオなど。普通のアサガオは farbito であることがわかります。

このように日本語エスペラント辞典のように使用できます。

(終)



図 1



図 2

エスペラント会館での会合

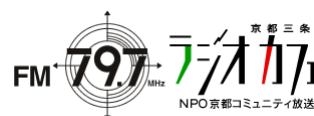
名称	日時		内容
エスペラントおしゃべり会	毎週月曜日	午後 6 時 30 分 ～8 時 30 分	・ 田平正子さんが主催 ・ 参加費 1 回 300 円
京都エスペラント会水曜例会	毎週水曜日	午後 2～4 時	・ 輪読 ・ La Movado 発送作業
京都エスペラント会土曜例会	月 2 回 土曜日	午前 10～12 時	・ 輪読 ・ やさしい作文

ウェブ講座

名称	日時		内容
月曜講座	月 2 回・月曜日	午後 7 時 30 分～8 時 30 分	・ 輪読 ・ トピック

FM79.7 京都三条ラジオカフェ「エスペラントって何？」

毎月第 2・第 4 水曜日、13:04～13:10 に放送しています。生放送が聴けない方は、ウェブページ「ラジオカフェ エスペラント」で検索して、お聴きください。



⇒ <http://radiocafe.jp/201603001>

この放送を続けるための資金は、京都エスペラント会とは別会計にしています。皆様のご支援をお願いいたします。

支援カンパの送付先：ゆうちょ銀行・振替口座 00990-3-23971 「野田淳子」

Al Vi Kara N-ro 106, eldonita en aŭgusto, 2021

京都エスペラント会 Kioto-Esperanto-Societo

◎事務局

〒600-8455 京都市下京区西洞院五条上る八幡町 537-6 エスペラント会館

電話 : 075-343-3120

ブログ : <http://esperanto.jp/kyoto/>

電子メール : esperanto_kioto@yahoo.co.jp

会費 : 正会員 年 7,200 円

準会員 年 3,600 円 (準会員の条件は La Movado 購読)

ゆうちょ銀行・振替口座 : 01000-4-9895 「京都エスペラント会」

◎Al Vi Kara 編集局

連絡先 : 〒618-0071 京都府乙訓郡大山崎町大山崎尻江 13-8 森川和徳

電子メール : kz_morikawa@yahoo.co.jp

PDF ファイルの保管アドレス <http://goo.gl/FgFEb>

※写真はカラーで閲覧できます。